

平成 3 0 年度

# 運営に関する計画

大阪市立今福小学校

(平成 3 0 年 4 月)

大阪市立今福小学校 平成 30 年度 運営に関する計画・自己評価 (総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

1. 道徳心・社会性について

規範意識や思いやり・情操面を問う本校児童アンケートでは平成 25 年度と比べ平成 29 年度では改善点が多くみられた。これは 1 年間を通して系統的に週目標を設定し、指導してきた効果の表れと考えられる。しかし高学年ほど「きまりを守る」ことの肯定的な回答は低下する傾向があるため、今後も集団登校や縦割り班など、異学年で活動することを多く取り入れることで児童同士で規律を高めあえるようにしたい。

いじめの認知は、年 3 回の児童アンケート調査、日常の児童観察、毎月の校内委員会での情報共有を通して早期発見・早期解決に取り組んできた結果、全ての事案に指導を入れ解決したと考えている。また中学年以上での SNS 使用に係るトラブルを防止するため、外部講師を招聘するなど、正しい使用法について指導を継続する必要がある。

平成 30 年度、支援を要する児童 (30 名) が在籍するため、さらにインクルーシブ教育の推進を図るとともに、個々の児童に適切な指導方法を研究する必要がある。

防災減災については、「防災対策マニュアル」を活用し、地域や区役所と連携した防災教育に取り組んでいる。本校児童アンケートで「自分の命を守る」の観点を問う肯定的な回答はかなり高いが、今後も「安心安全」のための取り組みが必要である。

「学校安心安全ルール」は、平成 28 年度に学校協議会で決議し、保護者に配付した。今後も本ルールに則り、適切な指導を行う。

2. 学力・体力について

全国学力・学習状況調査においては、国語・算数の平均正答率を高めることをめざし、平成 25 年度より基礎的な学習の徹底を図るため、週 2 回の「今福 (漢字・計算) 検定」や 5 年生において習熟度別少人数指導により基礎的内容を反復練習する「月 6 タイム」、平成 27 年度からは 4 年生を対象に「水 6 タイム」に取り組んだ。その結果、平成 29 年度、国語では平成 25 年度に比較し、大きな改善を図ることができたが、算数は平成 25 年度に比べて下回った。また家庭学習については、保護者アンケート調査からは概ね肯定的であったものの、児童の回答は全国・市の肯定的な回答を下回っている。

学力経年調査でも、3 年生から 6 年生までのほとんどの学年で正答率が 4 教科とも市平均を下回っており、今後も教職員の研究授業等を通して、教員の指導力を高め、児童の学力を向上させたい。

全国体力・運動能力、運動習慣調査の結果においても平成 25 年度に比べ平成 29 年度は大きな改善はできていない。そのため平成 28 年度より各学期で体力測定を実施し、児童の意識改善に取り組み、「休み時間に外でよく遊ぶ」児童を増やすために児童会運動委員会が体育倉庫用具貸し出しや担任が外に出る時間を増やすことで、肯定的な回答が前年度より増加した。また支援を要する児童については、個々の特性を見極めた適切な学習教材や指導方法を研究する必要がある。

## 中期目標

### 【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

○ 平成３３年度の全国学力・学習状況調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を８０％以上にする。

（施策１ 安全で安心できる学校、教育環境の実現）

○ 平成３３年度の全国学力・学習状況調査における「自分にはよいところがある」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を平成２８年度より５％向上させる。

（施策２ 道徳心・社会性の育成）

○ 平成２９年度～３２年度の年度末のいじめアンケートにおいて、学校で認知しているいじめについて、解消に向けて対応している割合を毎年１００％にする。

（施策１ 安全で安心できる学校、教育環境の実現）

○ 平成３２年度の校内児童アンケートにおける「学校や・家庭、地域などで地震や火災事件などが起こった時、どのように行動したらよいか知っていますか」の「知っている」とする肯定的な回答の割合を９５％以上にする。

（施策１ 安全で安心できる学校、教育環境の実現）

○ 平成３２年度の保護者アンケートで、「子どもは楽しく学校に通っている」といった内容の項目の肯定的な回答の割合を９０％以上にする。

（施策１ 安全で安心できる学校、教育環境の実現）

### 【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

○ 平成３３年度の全国学力・学習状況調査における国語・算数の知識に関する問題の正答数が７割以上の児童を平成２８年度より５％以上向上させる。

（施策５ 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組）

○ 平成３２年度の大阪市学力経年調査における標準化得点を平成２８年度より向上させる。

（施策５ 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組）

○ 平成３３年度の全国学力・学習状況調査における「家で学校の授業の復習をしていますか」の項目について肯定的な回答の割合を平成２８年度より向上させる。

（施策５ 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組）

○ 平成３３年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における合計得点を平成２８年度より３ポイント向上させる。

（施策７ 健康や体力を保持増進させる力の育成）

○ 平成３２年度の校内児童アンケートにおいて「手洗い・うがいをしっかりし、健康に気をつけている」といった項目について肯定的な回答の割合を９０％以上にする。

（施策７ 健康や体力を保持増進させる力の育成）

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

### 【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

#### 全市共通目標（小学校）

- 1 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。
- 2 小学校学力経年調査【校内調査】における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を80%以上にする。
- 3 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。
- 4 年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。

#### 学校園の年度目標

- 1 年度末のいじめアンケートにおいて、学校で認知しているいじめについて解消した割合を毎年100%にする。
- 2 小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える児童の割合を80%以上にする。
- 3 年度末の校内調査において暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度同様、0とする。
- 4 年度末の校内調査において、不登校になる児童数を前年度同様、0とする。
- 5 年度末の保護者アンケートで、「子どもは楽しく学校に通っている」の項目について肯定的な回答の割合を90%以上にする。
- 6 校内児童アンケートにおける「学校や・家庭、地域などで地震や火災事件などが起こった時、どのように行動したらよいか知っていますか」の「知っている」とする肯定的な回答の割合を95%以上にする。
- 7 小学校学力経年調査における児童質問紙において「自分にはよいところがある」といった項目の肯定的な回答を80%以上にする。

### 【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

#### 全市共通目標（小学校）

- 1 小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。
- 2 小学校学力経年調査における正答率【得点】が市平均の7割に満たない児童の割合を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント減少させる。
- 3 小学校学力経年調査における正答率【得点】が市平均を2割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント増加させる。
- 4 小学校学力経年調査【校内調査】における「学級の友達との間で話し合う活動を通して自分の考えを深めたり、広めたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度より増加させる。
- 5 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点（教育振興基本計画の成果指標）の向上に向けて、前年度までの課題や現状を踏まえ、体力向上に係る目標を、各学校ごとに必ず設定すること。（例：50m走、たち幅とび）の平均の記録を前年度より1ポイント向上させる。

#### 学校園の年度目標

- 1 小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。
- 2 小学校学力経年調査における正答率【得点】が市平均の7割に満たない児童の割合を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント減少させる。
- 3 小学校学力経年調査における正答率【得点】が市平均を2割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント増加させる。
- 4 小学校学力経年調査（校内調査）における「学級の友達との間で話し合う活動を通して自分の考えを深めたり、広めたりすることができていますか」に対して肯定的に回答する児童の割合を前年度より増加させる。

- 5 全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、特に課題である（50m走、たち幅とび）の平均の記録を前年度より1ポイント向上させる。
- 6 市学力経年調査において、「家で学校の授業の復習をしていますか」の項目の肯定的な回答を各学年平成29年度実施分より1ポイント以上向上させる。
- 7 校内児童アンケートにおいて「手洗い・うがいをしっかりし、健康に気をつけている」といった項目について肯定的な回答の割合を90%以上にする。

### 3 本年度の自己評価結果の総括

(様式例 2)

## 大阪市立今福小学校 平成30年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<b>【子どもが安心して成長できる安全な社会(学校園・家庭・地域)の実現】</b> <b>全市共通目標(小学校)</b> 1 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。 2 小学校学力経年調査【校内調査】における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童の割合を80%以上にする。 3 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。 4 年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。 <b>学校園の年度目標</b> 1 年度末のいじめアンケートにおいて、学校で認知しているいじめについて、解消した割合を毎年100%にする。 2 小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について「当てはまる(どちらかといえば当てはまる)」と答える児童の割合を80%以上にする。 3 年度末の校内調査において暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度同様、0とする。 4 年度末の校内調査において、不登校になる児童数を前年度同様、0とする。 5 年度末の保護者アンケートで、「子どもは楽しく学校に通っている」の項目について肯定的な回答の割合を90%以上にする。 6 校内児童アンケートにおける「学校や・家庭、地域などで地震や火災事件などが起こった時、どのように行動したらよいか知っていますか」の「知っている」とする肯定的な回答の割合を95%以上にする。 7 小学校学力経年調査における児童質問紙において「自分にはよいところがある」といった項目の肯定的な回答を80%以上にする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<b>取組内容①【施策3、道徳心・社会性の育成】</b> 進んで元気にあいさつできるようにする。(カリキュラム改革関連) 指標 「あいさつ週間」を毎月実施する。	
<b>取組内容②【施策2、安全で安心できる学校、教育環境の実現】</b> 学校のきまりを守ることについて、生活目標を毎週設定する。(カリキュラム改革関連) 指標 廊下・階段の歩行指導を徹底する。	

<p>取組内容③【施策3、道徳心・社会性】</p> <p>縦割り班編成により、活動の活性化を図り、異学年交流を深める。（マネジメント改革関連）</p> <p>指標 週に1回縦割り班活動に取り組む。</p>	
<p>取組内容④【施策2、安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <p>年間指導計画に沿って防災・防犯に関する授業を実施する。「警備及び防災・防犯の計画」「安全対策マニュアル」に基づき、災害時に備えた訓練を実施する。（カリキュラム改革関連）</p> <p>指標 各学年、学期に1時間の防災・防犯教育の授業を実施し、通常の避難訓練を年2回実施するとともに、保護者・地域との合同避難訓練を年1回働きかける。</p>	
<p>取組内容⑤【施策2、安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <p>ゲストティーチャーを招いたり、校外の施設を見学したりするなど体験活動を充実させる。（カリキュラム改革関連）</p> <p>指標 ゲストティーチャーを招いたり、校外の施設を見学したりするなど体験活動を全学年で1回以上実施する。</p>	
<p>取組内容⑥【施策2、安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <p>全校や各学年で、自尊感情を高められるような取り組みをする。（マネジメント改革関連）</p> <p>指標 月1回の校内委員会を実施し、共通理解を図り対策を打ち出す。</p>	
<p>取組内容⑦【施策2、安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <p>人権教育・道徳教育の年間指導計画を作成し、児童理解に努め、講師を招いた人権教育研修を年1回行う。（カリキュラム改革関連）</p> <p>指標 月1回の校内委員会において児童理解に努め、対策を講じる。また、講師を招いた人権教育研修を実施する。</p>	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	

## 大阪市立今福小学校 平成30年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</b></p> <p><b>全市共通目標(小学校)</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。</li> <li>2 小学校学力経年調査における正答率【得点】が市平均の7割に満たない児童の割合を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント減少させる。</li> <li>3 小学校学力経年調査における正答率【得点】が市平均を2割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント増加させる。</li> <li>4 小学校学力経年調査【校内調査】における「学級の友達との間で話し合う活動を通して自分の考えを深めたり、広めたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度より増加させる。</li> <li>5 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点(教育振興基本計画の成果指標)の向上に向けて、前年度までの課題や現状を踏まえ、体力向上に係る目標を、各学校ごとに必ず設定すること。(例: 50m走、たち幅とび)の平均の記録を前年度より1ポイント向上させる。</li> </ol> <p><b>学校園の年度目標</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。</li> <li>2 小学校学力経年調査における正答率【得点】が市平均の7割に満たない児童の割合を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント減少させる。</li> <li>3 小学校学力経年調査における正答率【得点】が市平均を2割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント増加させる。</li> <li>4 小学校学力経年調査(校内調査)における「学級の友達との間で話し合う活動を通して自分の考えを深めたり、広めたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度より増加させる。</li> <li>5 全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、特に課題である(50m走、たち幅とび)の平均の記録を前年度より1ポイント向上させる。</li> <li>6 市学力経年調査において、「家で学校の授業の復習をしていますか」の項目の肯定的な回答を各学年平成29年度実施分より1ポイント以上向上させる。</li> <li>7 校内児童アンケートにおいて「手洗い・うがいをしっかりし、健康に気を付けている」といった項目について肯定的な回答の割合を90%以上にする。</li> </ol>	



年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策5、子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 学力向上に向けて、指導方法や取組内容の充実を図る。(マネジメント改革関連)</p> <p>指標 すべての教員が関わった形で、教員は年1回以上の授業研究を実施する。</p>	
<p>取組内容②【施策5、子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 児童一人ひとりの状況に応じた指導を通して学力向上への取組みを進める。(マネジメント改革関連)</p> <p>指標 3年生以上は、国語科・算数科における習熟度別クラス編成時にレディネステストや児童アンケートを実施し、適正なクラス編成を行う。</p>	
<p>取組内容③【施策4、国際社会において生き抜く力の育成】 全学年で、アクティブラーニングを活用した英語活動を進める。(グローバル改革関連)</p> <p>指標 3～6年生の外国語活動の時間に加えて、1・2年生においても年間10時間程度の英語活動を実施する。</p>	
<p>取組内容④【施策5、子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 読書習慣の定着を図るため、読書量を調べるなど、意欲的に取り組めるようにする。(マネジメント改革関連)</p> <p>指標 児童アンケートで、「進んで本を読んでいますか」の児童の割合を8割以上にする。</p>	
<p>取組内容⑤【施策5、子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 基本的な話型を身につけ、発表の際に活用できるようにする。(マネジメント改革関連)</p> <p>指標 児童アンケート「話し合いの時、自分の意見を発表していますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度より増加させる。</p>	
<p>取組内容⑥【施策5、子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 タブレット端末や視聴覚機器を活用し、児童の学力を伸ばす教材の活用を進める。またプログラミング授業のあり方について研究する。(マネジメント改革関連)</p> <p>指標 学習活動で、大型ディスプレイやCD、授業用パソコン、タブレット端末などを活用する授業を月に2回以上実施する。民間企業等の支援を受け、プログラミング教育の出前授業や体験学習を通して授業づくりについて研究する。</p>	
<p>取組内容⑦【施策6、健康や体力を保持増進する力の育成】 体育的な用具を充実させ、外遊びを意欲的にしようとする環境を整備し、児童の体力向上に努める。(マネジメント改革関連)</p> <p>指標 学年に応じた外遊びや、体力向上につながる運動を年間通して行う。 かけ足週間や大縄遊びなど、学期ごとに運動に関する取組みを行う。</p>	
<p>取組内容⑧【施策6、健康や体力を保持増進する力の育成】 50m走と幅跳びについて児童一人一人に目標を設定させ、走・跳の運動(あそび)の授業を計画的に行う。(マネジメント改革関連)</p> <p>指標 体育科授業の年間計画に位置付け、学期に1回記録をとり意欲を高める。</p>	

<p>取組内容⑨【施策 6、健康や体力を保持増進する力の育成】</p> <p>保健指導や清潔週間等を実施し、児童の健康な生活習慣の確立を図る。</p> <p>学校保健委員会を通じて児童の健康課題について協議し、健康づくりを推進する。</p> <p style="text-align: right;">(カリキュラム改革関連)</p>	
<p>指標 清潔週間を隔月に 1 回行う。</p> <p>保健だよりを毎月発行し、配付時に内容に基づいた保健指導を行う。</p> <p>学校保健委員会を年に 1 回行う。</p>	
<p>取組内容⑩【施策 6、健康や体力を保持増進する力の育成】</p> <p>日々の給食時間の指導や、栄養指導を行うことで、食への関心を高め、食事をしっかりとる子どもを育てる。</p> <p style="text-align: right;">(カリキュラム改革関連)</p>	
<p>指標 年 2 回以上の栄養指導を行う。</p> <p>「給食だより」「食のおたより」を活用した給食指導を、毎月行う。</p>	
<p style="text-align: center;">年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p style="text-align: center;">次年度への改善点</p>	